

令和6年度病虫害発生予察情報 注意報 第1号

令和6年7月16日
岩手県病虫害防除所

斑点米カメムシ類が平年より多く発生しています。
**水稻の出穂15～10日前までに、水田畦畔や雑草地、
農道・水田内の除草を徹底し、斑点米カメムシ類の密度を
低下させましょう。**

- 1 対象作物、病虫害 : 水稻、斑点米カメムシ類
- 2 対象地域 : 県下全域
- 3 発生量 : 多
- 4 予報の根拠

- (1) 基準圃場（北上市：イタリアンライグラス主体の雑草地）では、7月に入ってからアカスジカスミカメ成虫（写真1）等カスミカメムシ類成幼虫の発生が急激に増加している（図1）。
- (2) 県内の水田では、6月中旬から斑点米カメムシ類の多発傾向が続いており、7月上旬の水田畦畔すくい取り調査（40圃場）の結果、斑点米カメムシ類の発生圃場率は62.5%（平年47.2%）で平年より高く、発生圃場における平均捕獲虫数は15.1頭（平年7.8頭）で平年より多い（図2）。
- (3) 水田畦畔の草刈りが実施された場合でも、出穂したイネ科雑草の刈り残しがある圃場は、斑点米カメムシ類の発生圃場率が高く発生量は非常に多くなる傾向にある（図3）。

5 防除対策

県内の水稻の出穂期は平年より早まると予測されていることから（令和6年岩手県内の水稻の生育概況：7月10日現在速報、岩手県農業普及技術課革新支援担当）、下記の対策を徹底する。

- (1) 水稻出穂期に本田内へ侵入するカメムシ類の密度を低下させるため、**水稻の出穂15～10日前までに水田畦畔や雑草地、農道の除草を徹底する。**
- (2) 地域内に**イネ科雑草**が残されていると、カメムシ類の発生源となり近隣の圃場に侵入するので、草刈りは**地域一斉**に行う（写真2）。
- (3) 水田内雑草の**ノビエ、シズイ、ホタルイ**類は、アカスジカスミカメの発生源となって被害を助長するので、これら雑草がある圃場では水田内の除草を徹底する。

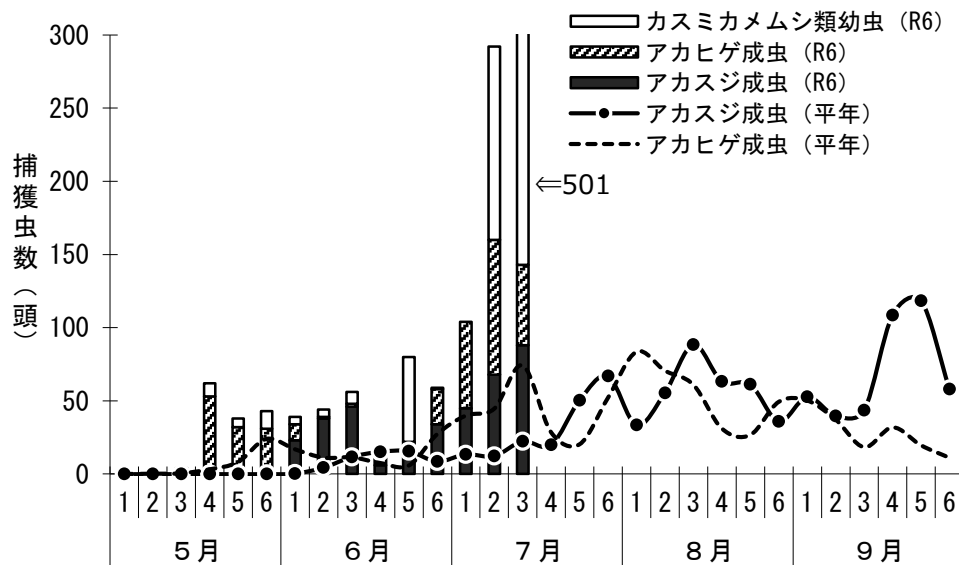


図1 基準圃場（北上市）における斑点米カメムシ類の発生消長（7月第3半旬現在）

注）農業研究センター内イタリアンライグラス主体雑草地往復20回振すくい取り
アカスジ：アカスジカスミカメ、アカヒゲ：アカヒゲホソミドリカスミカメ

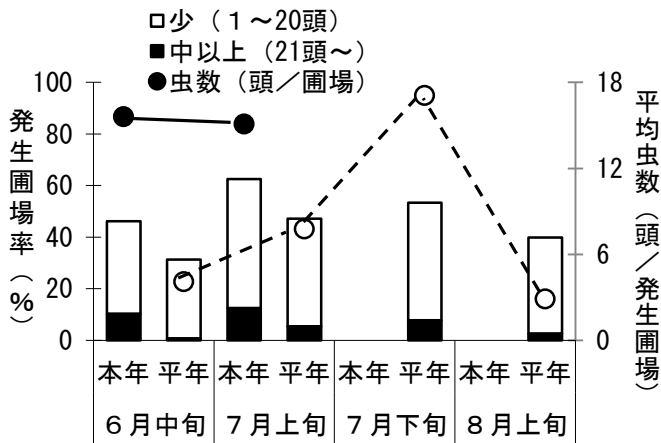


図2 斑点米カメムシ類の時期別発生状況

(水田畦畔往復 20 回振すくい取り)

※ 斑点米カメムシ類：アカスジカスミカメ成虫、アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫及びカスミカメシ類幼虫の合計 (図3も同じ)

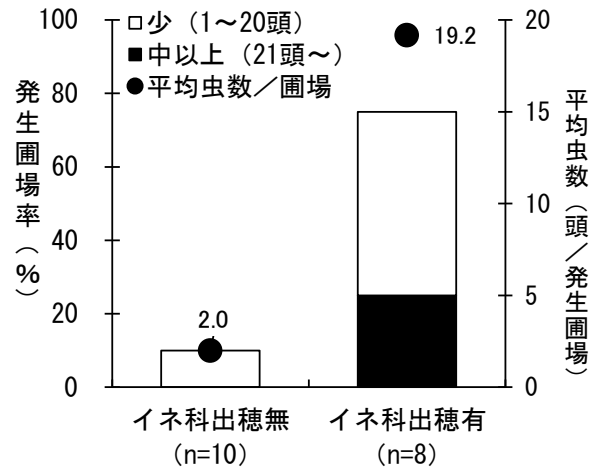


図3 草刈りを実施した水田畦畔におけるイネ科雑草の有無と斑点米カメムシ類の発生状況

(7月上旬水田畦畔往復 20 回振すくい取り)

※：水田畦畔の草刈りが実施されていた圃場について、出穂したイネ科雑草がない圃場と残っていた圃場に分けて整理。



写真1 イタリアンライグラスに群生するアカスジカスミカメ成虫



写真2 農道の雑草管理状況

農道右側に群生するイタリアンライグラスは、アカスジカスミカメの重要な発生源となるため、地域的な雑草管理が重要となる。

☆農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)☆

【利用上の注意】

- ・ 農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・ 農薬使用の際は (1) 使用基準の遵守 (2) 飛散防止 (3) 防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

